

富士フイルムホールディングス株式会社
2021年3月期 第3四半期決算説明会
主な質疑応答

Q: J-TEC の株式譲渡が発表されたが、事業ポートフォリオ見直しについて今後の方針を教えてください。

A: ヘルスケア領域の成長戦略の一環として、バイオ医療の事業ポートフォリオ最適化を図る中で、J-TEC の株式譲渡を決定した。再生医療では、創薬支援、細胞治療薬の開発及び CDMO に注力をしていく。今後も、当社の技術を活かすことができ、投資対効果が高い分野に経営資源を集中投資する。

Q: ドキュメント ソリューションについて、オフィス市場における、プリントボリュームの第4四半期の見通しを教えてください。

A: 日本は、緊急事態宣言及び期間延長を受けて、回復状況が想定より緩やかとなっており、前回決算時ではコロナ前の95%まで回復すると見ていたが、第4四半期末時点では、90%程度までの戻りになると見ている。海外は、中国95%、オセアニア80~85%、アジアパシフィック地域90%まで回復すると見ている。

Q: イメージング ソリューションの第3四半期(3ヶ月)の業績が、新型コロナ影響を受けながらも、堅調だった要因を教えてください。

A: チェキの販売が、年末商戦において、欧米・中国を中心に好調に推移したことにより、イメージング全体で計画を上回った。

Q: 次期中期経営計画(4月中旬発表予定)の考え方を教えてください。

A: ベースとなる考え方は、以下の3点。

①成長領域として位置付けている、ヘルスケア・高機能材料の成長加速

ヘルスケアは、日立製作所の画像診断関連事業を加えるメディカルシステムとバイオ CDMO を両輪として、成長を加速させるとともに、再生医療、医薬品の収益性を高めていく。高機能材料は、5G や自動運転技術などを背景にした拡大する半導体需要を取り込み、電子材料をさらに成長させる。

②FUJIFILM ブランドによるドキュメント事業の世界展開

4月から富士フイルムビジネスイノベーションとしてスタートするドキュメント事業において、FUJIFILM ブランドでの世界展開を進める。

③コロナ後の市場変化を見据えた一層の体質強化

コロナ後の市場環境の変化を予測し、バックカスティング思考により、必要となる研究投資や M&A 投資を行い、一層の体質強化を図る。

以上